

市川市まち・ひと・しごと創生総合戦略

《2015－2060 人口ビジョン編》



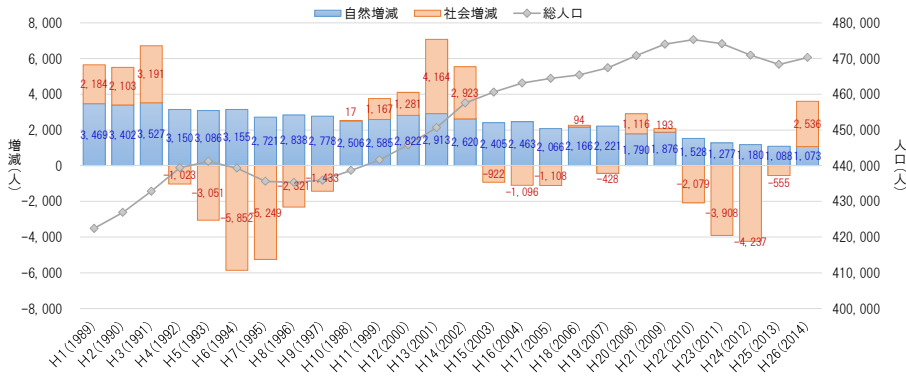
平成 28 年 3 月

人口ビジョン編 目次

《人口ビジョン編》ダイジェスト	・・・・・・・・・・	P1
<hr/>		
1 人口の現状分析	・・・・・・・・・・	P4
<hr/>		
1-1 人口動向の状況と分析	・・・・・・・・・・	P6
1. 人口・世帯の状況	・・・・・・・・・・	P7
2. 自然動態	・・・・・・・・・・	P12
3. 社会動態	・・・・・・・・・・	P17
4. 市内の地域別人口の状況	・・・・・・・・・・	P31
<hr/>		
1-2 産業・就業等の状況と分析	・・・・・・・・・・	P34
1. 市内の産業の状況	・・・・・・・・・・	P35
2. 市民の就業の状況	・・・・・・・・・・	P39
3. 通勤・通学等の状況	・・・・・・・・・・	P42
<hr/>		
1-3 近隣市との比較による分析	・・・・・・・・・・	P44
1. 人口	・・・・・・・・・・	P45
2. 自然動態	・・・・・・・・・・	P47
3. 社会動態	・・・・・・・・・・	P49
4. 産業	・・・・・・・・・・	P56
5. 就業	・・・・・・・・・・	P59
6. 通勤・通学等	・・・・・・・・・・	P61
7. 居住環境	・・・・・・・・・・	P63
<hr/>		
2 人口の将来展望	・・・・・・・・・・	P66
<hr/>		
2-1 将来人口推計（全体）	・・・・・・・・・・	P68
1. 推計方法	・・・・・・・・・・	P69
2. 推計結果	・・・・・・・・・・	P77
3. 影響分析	・・・・・・・・・・	P85
<hr/>		
2-2 将来人口推計（地域・地区別）	・・・・・・・・・・	P90
1. 推計方法	・・・・・・・・・・	P91
2. 推計結果	・・・・・・・・・・	P92
<hr/>		
2-3 人口の変化が地域の将来に与える影響	・・・・・・・・・・	P104
1. 概要	・・・・・・・・・・	P105
2. 地域の産業への影響	・・・・・・・・・・	P106
3. 公共施設等の維持管理、更新、利用などへの影響	・・・・・・・・・・	P107
4. 市の財政状況への影響	・・・・・・・・・・	P109
<hr/>		
2-4 人口の将来展望	・・・・・・・・・・	P112
1. 目指すべき将来の方向	・・・・・・・・・・	P113
2. 人口の将来展望	・・・・・・・・・・	P115

1 人口の現状分析

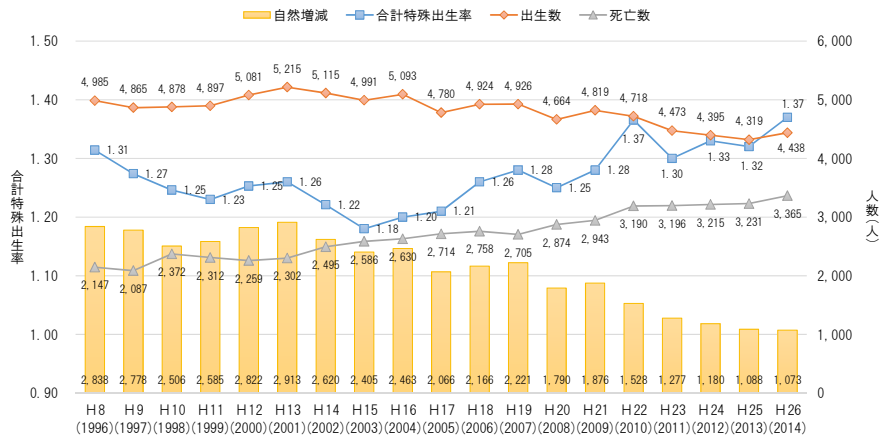
1) 総人口



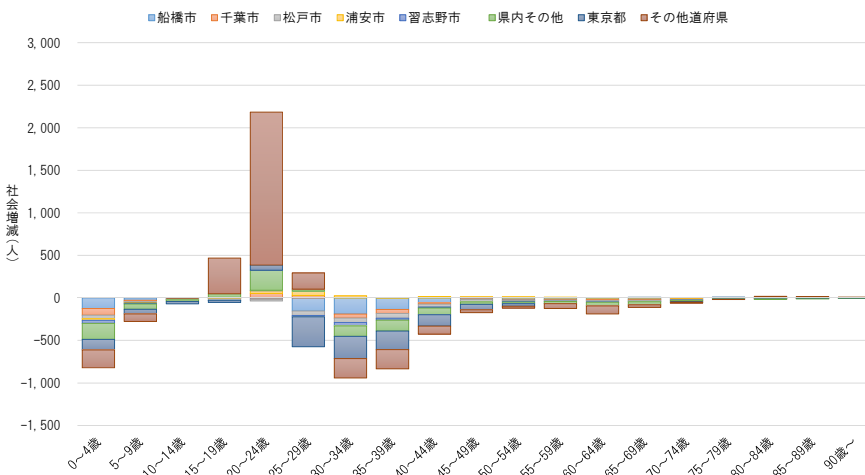
- 総人口は、転出者の減少・転入者の増加によって H25 途中より回復傾向。H27. 11. 30 現在過去最高を更新中。
- これまでの人口推移で、短期的な増減は社会増減に起因。
- 年齢階層別人口は、40 歳代前半（団塊ジュニア世代）を中心に 30～40 歳代の人口が多い構成。

2) 自然動態（自然増減、出生数、死亡数、合計特殊出生率の推移）

- 年間出生数は、H13 をピークに、以降減少傾向（H26 4,438 人）。
- H26 は自然増 1,073 人となっており、近年は 1,000 人程度の自然増を堅持。
- 合計特殊出生率は、回復傾向（H26 1.37）だが、全国平均（H26 1.42）より低い。



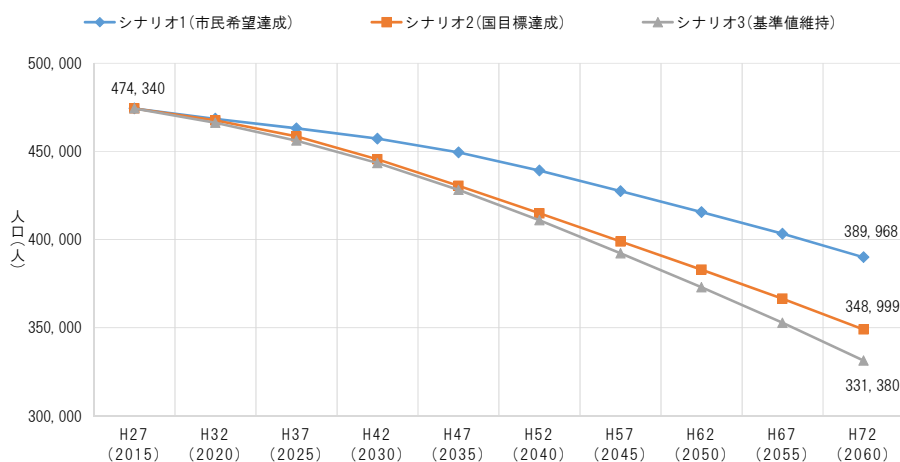
3) 社会動態（年齢別・地域別の純移動数）



- 10 代後半から 20 代前半は転入超過。千葉県および東京都以外の道府県に対する社会増が多い。
- 転入理由は、「転職・就職を機に」が多い。
- 30 代から 40 代前半と 5 歳未満は転出超過。東京都内と船橋市や松戸市などの近隣市に対する社会減が多い。
- 転出理由は、「住宅条件の改善」が多い。

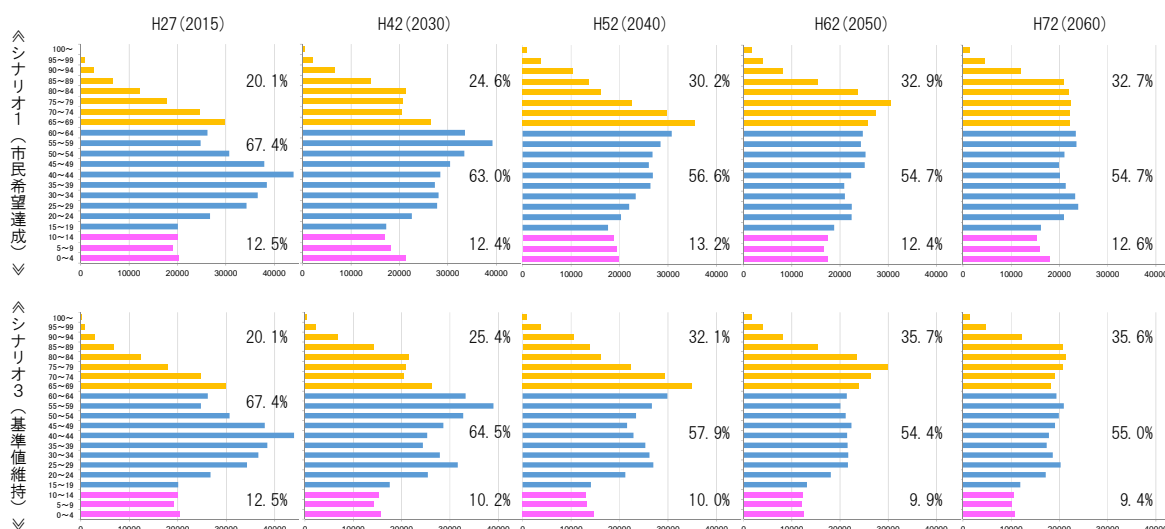
2 人口の将来展望

1) 将来人口推計



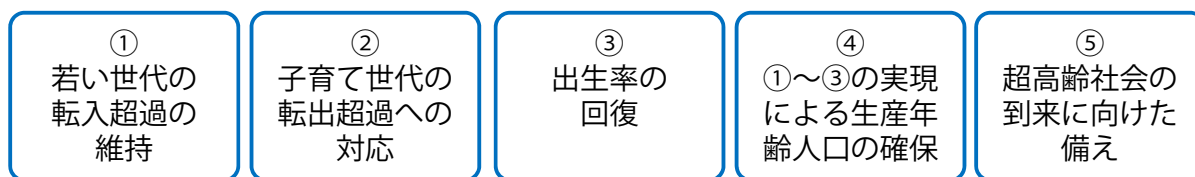
- 現在のままの状況が継続するものと仮定すると
約 33.1 万人 (H27 比△14.3 万人・△30.1%) 【シナリオ 3】
- 全国の地方創生が進み、国民希望がかなうと仮定すると
約 34.9 万人 (H27 比△12.5 万人・△26.4%) 【シナリオ 2】
- 出生や定住に対する市民の希望がかなうと仮定すると
約 39.0 万人 (H27 比△8.4 万人・△17.8%) 【シナリオ 1】

2) 人口ピラミッドの推移



- どのシナリオでも『団塊ジュニア』前後が 65 歳以上となる H47 から H52 頃より、老年人口が急増
- 出生率の向上、転出超過層の定住化により、シナリオ 1 では、年間出生数は 4,000 人前後を維持し続け、H67 から H72 頃に、5 歳階級の年齢がほぼ 2 万人程度で定常状態となる (つり鐘型ピラミッド)
- 出生率の回復しないシナリオ 3 では、年少人口が減少しつづけ、H62 頃より年齢が高くなるにつれて人口が多くなる (逆富士山型ピラミッド)

2) 目指すべき将来の方向と将来展望



【2015～2060の将来展望】

住宅都市として、生産年齢人口の確保による持続可能な人口構成の構築